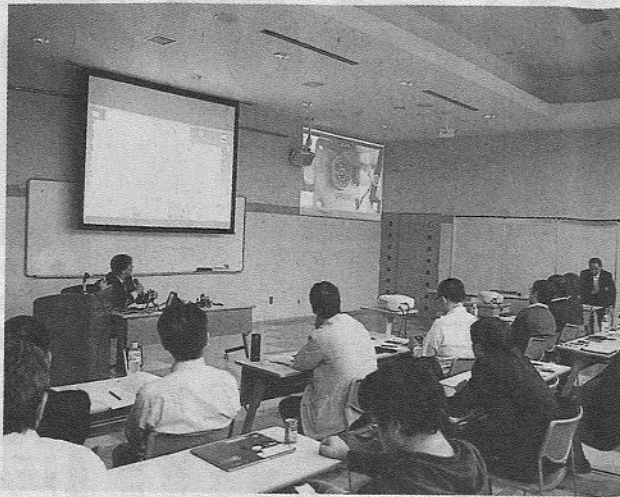


関係者約70名出席

ISOBUS 普及推進会 キックオフセミナー

今年8月に設立したISOBUS普及推進会（長澤秀行会長）が9月27日、北海道帯広市内のとかち財団十勝産業振興センター大会議室でキックオフセミナーを開催し、同推進会は今後求められるスマート農業やIoT技術を見据え、ISOBUS対応の作業機および電子制御ユニット



応用例を説明する西脇氏



山田監事

（ECCU）の開発を实践的に支援・推進することを目的に発足したものを作業機メーカーとその販社、支援する試験研究機関や行政などの後援団体など約70名が参加。セミナーを中心に普及が進む国際規格ISOBUSについて理解を深めた。同推進会会長の長澤秀行とかち財団理事長の挨拶後にアドバイザーを務める2名の講師が講演した。農研機構農業技術革新工学研究センターの元

林浩太氏はISOBUSの基礎知識について述べた。元林氏は農業機械の通信制御を共通化する技術の必要性が唱えられた中、農業電子工業会（AEF）が定めた規格であるISOBUSについて、リアル・バスの通信方式であるCAN通信からその上位プロトコルであるISO11783、その実装標準であるISOBUSについて、仕組みや違いについて述べたほか、ISOBUSの高級機能であるタスクコントロールといった点について説明した。続いて農研機構農業技術革新工学研究センターの西脇健太郎氏がISOBUS

の応用例について述べ、市販のほ場情報管理ソフトであるFMISを利用した可変散布マップの作成や市販UT/TCCを利用した可変散布作業、市販FMISを利用した作業ログの確認などを実際に行いながら解説した。また、最後に事務局を務めるとかち財団事業部もめるとくり支援課の田村知久氏が同普及会が提供する技術サービスについて説明。各終了後に参加者からの質問に応じた。

講演終了後に推進会議事務を務める山田政功十勝農業機械協議会会長がキックオフ宣言を実施。「ISOBUSの認証が日本で取れるよう、会員企業の皆様と共にISOBUSの推進に協力し、各企業にとってプラスになるよう活用いただければ」と述べたあと、出席者と共に高らかに腕を掲げて宣言した。